

FD 講演会
「九州大学オンライン授業のグッドプラクティス
～ オンデマンド型授業編～」

オンライン質問コーナーで 対面時よりも双方向性を確保

施 光恒（せ・てるひさ）

比較社会文化研究院

2021年（令和3年）3月9日（火曜日）

授業の概要

- 「政治学入門」（前期、水曜日1時間目）
- 基幹教育科目
- 受講者数158名（名簿による）
- 「オンデマンド＋リアルタイム」型
- 例年同様、講義中心の授業
 - 今回は当初、「政治理論入門」とサブタイトルを付け、政治哲学の基礎を話すと同時に現代の政治を見る目を養うという授業を予定していたが、コロナでオンライン授業になるということで変更。
 - 「グローバル化とナショナリズム」という副題を付け、グローバル化とナショナリズムに関する理論的話題と時事的問題を結び付け、理解を深めるという授業に変更した。
 - そのほうが私の新聞やネットに書いた記事、その他、ネット上の素材が使える、効果的かと考えたため。

授業計画

- 1. 授業の概要説明
- 2. 用語の説明——「ネイション」、「エスニック集団」、「グローバル化」など
- 3. ネイションの起源——グローバル化は必然的な宿命なのか？
- 4. グローバル化の問題点——格差拡大はなぜ生じるのか
- 5. グローバル化の問題点——民主主義の機能不全
- 6. グローバル化の問題点——国民の分断とエリート劣化
- 7. ナショナリティと自由民主主義
- 8. ナショナリティと自由民主主義
- 9. ナショナリティと自由民主主義
- 10. 「ポスト・グローバル化」時代の世界秩序を考える
- 11. 「ポスト・グローバル化」時代の世界秩序を考える
- 12. 海洋国家論と移民問題——日本のナショナル・アイデンティティ
- 13. 海洋国家論と移民問題——日本のナショナル・アイデンティティ
- 14. まとめ

授業の進め方

- なるべく日曜日の夜までに下記のファイルをmoodleにアップロード
 - 講義資料
 - PPTのスライド資料、新聞記事など。
 - PPTのスライド資料は1ページに1枚のスライドのもの（「閲覧用」）と1ページに4枚のスライドのものの二種類を準備
 - 講義の音声ファイル
 - 90分の講義だが、前半と後半（ほぼ45分ずつ）の2つのファイルに。
- できるだけ水曜日1時間目の本来の授業時間までに、各学生は、上記の講義資料や音声ファイルを用いて学習を進める。
- 理解度の確認、および出欠確認のための毎回の「小テスト&アンケート」
 - 「アンケート」には、「授業を受けるうえで困ったこと」や授業について、あるいは政治一般についての質問も自由に書いてもらった。
- 水曜日1時間目は任意参加の「オンライン質問コーナー」に。
 - 教員と学生との間の双方向性の確保。
 - 任意参加にしたのは通信環境が十分でない学生がいると考えたため
 - 授業の理解に大きくかかわる質問への回答や補足説明を行った場合は、次の講義（スライド資料や音声ファイル）で触れた。

第8回 グローバル化の問題点 (2) のつづき、ナショナリティと自由民主主義 (1) コスモポリタニズム

▼ 資料フォルダ (音声ファイル、およびスライド資料)

-  スライド資料 (印刷用) 第8回授業 (7月1日付) ナショナリティと自由民主主義 (1) .pdf
-  スライド資料 (閲覧用) 第8回授業 (7月1日付) ナショナリティと自由民主主義 (1) .pdf
-  音声ファイル (後半) 第八回目授業 7月1日.mp3
-  音声ファイル (前半) 第八回目授業 7月1日.mp3

フォルダをダウンロードする

第8回授業の確認テスト&アンケート

回答期限は、7月7日 (火曜日) の夜までです。出欠確認を兼ねていますので、忘れずに回答してください。

本日(7月1日) の授業の「会議室」へのリンク

授業などに関する質問がある人はぜひ参加して、気楽に発言してください。

なぜこのような形式にしたか

• 学生の通信環境が心配だった

- 一人暮らしの学生でもwifi環境が十分あるかなど。
- リアルタイムでの受信が可能か懸念した。

• 音声ファイルをダウンロードし、オフラインでも聞ける形式を選択。

- 音声ファイルのサイズはあまり大きくない。
 - 90分の音声ファイルがだいたい42MB程度
- 通信速度にもよるがwifiがある場所であれば、10秒以下でダウンロード可能。Wifiがなくてもスマホの回線でもさほどダウンロードに苦労しない。
- 学生がスライドを見ながら講義を聞くというイメージでスライド資料、音声ファイルを準備。

• 双方向性の確保のため工夫した。

- このような形式を選択したが、学生が授業内容の理解度をどのように確認するか、一方通行的な授業になってしまわないか、が不安だった。

• そのため、毎回「小テスト&アンケート」と「オンライン質問コーナー」を準備した。

- 小テストはmoodle上に準備。理解度の確認（学生自身の自己確認も含む）のため。
 - 毎回、3択問題を3～4問、および自由記述の「質問とコメント」。
- 「オンライン質問コーナー」（水曜日1時間目）は任意参加で授業の理解を確認し、補足説明するため。また、教員と学生との間の心理的なつながりの形成のため。

「オンライン質問コーナー」について

- 90分間すべてを質問やコメントに回答する時間に
- これまでの講義内容についての質問を受け付ける
 - その場でマイクをオンにして
 - チャット機能を通じて
 - 毎回の「小テスト&アンケート」を通じて
- 時間中に学生から質問が出ないときは、「小テスト&アンケート」に寄せられていた質問について回答した。
 - ラジオ番組の雰囲気だった
- 質問は多岐にわたった
 - 「授業内容そのものについて」「授業に関連するもの」「その他の政治や経済に関する話題について」
- 幸い、話題（回答すべき質問やコメント）が途切れることはなかった

「小テスト&アンケート」に寄せられた質問やコメントの数

授業の回	「小テスト&アンケート」 回答数	質問・コメント数 (「特になし」も含む)
2回目	146	56
3回目	145	68
4回目	144	66
5回目	143	68
6回目	137	73
7回目	142	50
8回目	147	44
9回目	140	48
10回目	137	41
11回目	140	47
12回目	131	88
13回目	137	44
14回目	117	66

学生からの質問の例（5回目）

- 消費税の引き上げや、教育改革、東峰村の鉄道復旧の断念、民泊の導入等世の様々な事案がグローバル化に結び付いていたことに驚きました。グローバル化に伴い海外の投資家等の意向に沿うような政策に移行し、一般市民の声が反映されにくくなり暮らしが悪化しているというはなしでしたが、グローバル化が時代である限り一般市民が豊かになることは不可能なのではないでしょうか？
- 今回の授業で聞きそびれてしまったので質問させていただきます。グローバル化による政府と企業や投資家との立場の逆転の問題を打破するには各国が協力して法人税を一斉に下げなければならないと僕は思うのですが、他の打開策は存在しますか？ よろしくお願ひします

学生からの質問の例（10回目）

- 今回授業を聞き、自身の考えや行動も日本人という意識が大きな要となっていると感じて、リベラル・ナショナリズム論の主張に納得しました。逆に、リベラル・ナショナリズム論にはどのような欠点があるのでしょうか？
- リベラルナショナリズムと民主主義の関係について1つ質問させていただきます。審議性民主主義の実現には信頼が必要ということについてはなのですが、近年、国会の様子をニュースなどで見ると国会内では口論になっていたり、ヤジを飛ばしているところがよく写されていて、とても信頼があるようには見えない気がするのですが、今の日本の政治の与党と野党の間には信頼感はあるのですか？（ニュースで抜粋されている様子をよく見る感じなので、間違えていたらすみません）よろしくお願いします。

授業を振り返って

• 授業の進捗や内容は、例年以上。

- 事前録音の講義のため、ほぼ計画通りに進められた。
 - 例年以上に準備に時間を費やしたためもあるが…。
- 小テストや質問、コメント、中間・期末レポートで見る限り、学生の理解度も例年と比べ遜色なかった。

• 双方向性も例年以上だった。

- 私自身、大きな手ごたえ

• 学生からの評価も幸いよかった。

- 最終回での学生のmoodle上でのコメント
- 長沼先生のまとめ「質問コーナーが面白かった」「自分以外の人質問も聞けてよかった」「高いモチベーションで学ぶことができた」など。
- 学生主宰のミニコミ誌からも好評。

• 「クラスメートの学びの状況がわからない」という不安は、オンライン質問コーナーなどで改善可能。

- ただ、学生間の横のつながりがあまり形成されなかったことが課題か。

まとめ

- 音声ファイルを用いたオンデマンド型授業は、通信環境の心配がいらないため、お薦めできる。
- Moodle を活用した小テストやアンケート、リアルタイムの「オンライン質問コーナー」などで教員と学生の双方向性は確保可能
- 「オンライン質問コーナー」などの工夫で、学生が他の学生の学習状況を知ることにもできる。
- オンライン授業にも利点があるのでそれを活用すべき
 - 学生は一般的に、教員の話を遮って質問することには消極的だが、オンライン上のチャット機能やアンケート機能を使うと質問やコメントを結構くれる。
 - 対面授業となっても、オンラインでの経験を活かせる。
- **ただ、学生同士のコミュニケーションをオンライン授業でどう確保するかは今後の課題。**